特1
2292

大和本草

附錄 卷之一
附錄 卷之二

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292

ガラス使用

特1
2292

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292

ガラス使用

大和本草附錄卷之一

○草類　海藻水草ヲ雜記ス

和品

百草霜（和名）　治瘡端午日採百草燒存性黃丹等分發日ノ前夜一ト夕及發日ノ曉一ト夕水ニテ服ス又治湯火傷童便ニ和シテ付ベシ

日光黃ス（金苔ヶ苺）　花葉萱草ニ相似テ小ナリ萱草ト同時ニ黃好花ヲヒラク西土ニテハゼンテイ花ト云花六出ナリ葩ハ不開盡ツボミノ如シ

蠻種

海椰子（カミヤシ）　海中所生藻實也其形椰子ニ似テ小ナリ

吉井氏藏書

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

特1
2292

桃ノ大ニテ大腹皮ノ如ナル皮アリ遅羅國ヨリ來ル病ヲ治スト云未詳其功

牡丹苔 長崎ノ海ニアリ牡丹ノ葩ノ如シ色潔白可食

海粉 長崎ニ自外國來ル海苔ノ類ナリ乾堅クシテ重リ生スウスクヒラタシ

來ル絲條ノ如シ色緑ナリ熱湯ニ浸セバ色淡シ食之味美醫書ニ所謂海粉ハ別物也 海石粉 塩 海蛤粉ニ海粉ノ名アリ

山錫杖 西土ノ方言也葉ハ如酸醬草其莖ト實ハ紅ナリ根、如竹根生于陰地山草也 夢ノ訛シ ヤマトウカラシ 漢名山珊瑚 予猶考ヘ夢ノ条ニ委ヘアリ

覇王蕉 乾煎服治噎膈甚驗 蕉窓任制 サホテン

藻類 海濱ニ生ス海草ノ類ナリスゲモト云乾シテ燒テ存性漏籃ニ盛リ潮水ノ汲テ澆之其水ヲ釜ニ入煮レハ即時ニ鹽トナル藻鹽ヤクモレ亦垂ルト云ハ是ナルベシ常ノ鹽ヨヤクヨリ甚速ニ成ル菠藻ハ海濱ニ多シ俗ニスゲニ似タリ

蓮 其莖ヲ水中ニテ切ハ莖中ニ水入テ根枯ル

烟草 北京ニテモ韃子ニテモタバコト云和語ニテ唵芭蕉書名陳物府ヲ

ラズ

鼓子花 其葉ワカキ時煮テ食レ熱湯ニユビキ日ニ干レテ可食

伊勢ノ濱荻ハ　三津村ノ南ノ後ニアリ片葉、蘆ニシテ常ノ蘆ニハガハレリ（元ヨリ別ニアラス凡ニヨル）

鬱金　遅羅ヨリ來ルサフラント云朶物ニ用ユ唐人ハ魚肉ノ料理ニ用ユ寒ヲ良ルス寒國ニハ不宜（蘭名）

草タヅノ花　夏秋開ク木タヅノ花春開ク花ハ同ク草（莉蘿ヘ接屑木ヘ）

タヅノ實ハ赤ク美ナリ大サハ冬青樹ノ如シ

俗所謂者婆三禮草ハ　旱蓮草也（同名三種カワヂカルソサタヅ猿ニ似名ヲ得）

肥後ハ代川苔　呂綠美長一尺餘味佳長崎ノ海（漢名紫菜ヘ回三生ル主月カリ）

青苔アリハ代苔ヨリ短シ味光ヨシ伊勢苔武藏ノ

淺草品川苔皆同類也青苔ナリ肥後ハ代ノリノ

淺草品川ハ此名菜ヘ主用苔ニアラス

外皆海苔也

十樣錦　旱ク色付テ黃紅ノ色々ニカハル故ニ十樣（紫紅綠黃ノ色交ルモノ本条ヘ）

錦ト云鴈來紅ハ八九月ニ至リテ色紅ナリ

ホトトギス・ト云草花本編第七卷ニ載陰地ヲ好ム

日ヲオソル（西日ニ葉ヘ）

山蘭　葉ハクリニ似テ小ナリ花ハ恰モ如蘭微香（ホクロヲ云漢名麥門冬ノ上品ハ猶及蘭ニ云ヘリ）

アリニ月ニ花開ク

佛甲草　毒虫ノサシタルヲ治ス灸カデ蜂ノサシタルニツクヌ蛇ノハミタルニ付テヨシ莖葉ヲスリテ付ル鷄小蛇ヲノンテ腹大ニ脹ル此草ヲスリテグラフタチ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

二千小蛇ヲ瀉下シテ腹ヘル蛇ハタヽレテ出タリ蛇ノ來ル處ニレゲクウフレバ蛇ヲソレテ不來他ノ毒虫モ避ケテ不來蚊ノクヒテ腫タル處ニ莖葉ヲモンテ付レハ忽痛止此草庭中或盆中ニウフベシ效多シ本編ニ其效ヲ不載故ニ再記ス

時珍云綱目四 北戸錄云嶺表有鸐子草蔓花也當夏開形如飛鶴翅羽觜距皆全ト云是媚草採曝以代面靨○篤信謂是本編第八ラセタル鷺草ナルベシ

花菖蒲 既ニ本編ニノセタリ五六月ニ花開ク葉モ

花モカキツバタニ似タリ紫色ナリガキツバタハ紫緑ナリ與彼異又白紅サラニアリ

櫻草 壹岐ノ島海岸ニ產ス其色紅白似櫻花片々相屬浸醋煞而食之脆鬆而潔清味亦佳

ウケウト 海草也煮テトコロテンノ如クカタマルゴンニヤクノ色ナルモアリ非佳品不可食

小玉ツサウリ 一種アリ一種ハスゞメ瓜ト云蔓ト葉ト括蔞葉ノ如ニシテ甚小ナリ葉ニルンピゲアリ是小瓜蔞ナリ實ハ金橘ヨリ小ナリ二ロクシテ内

ニ細片多クカサナル美潔ナリ食スヘシ其子ヲウフレバ當年花サキ實ノル又一種西土ニテヒナノ合(カウ)子(ゴキノルトイフ)ト云又ヨメノゴキト云スベメ瓜ト八別物ナリ半ヨリ皮ヨコニワル、上ヲ去レバ恰(モ)椀ノフタヲ取テ内ニ飯ヲモリタル如ク其實(ミ)滿テリ是ハスベメ瓜ヨリ九月ニ實(ミ)ノルスベメ瓜ハヨメノゴキト云物ト不同キタナレ不美潔(キヨク)實ハ黒クシテ兩片合ヘリ細片本書ニハ一物トス異(アヤ)シ

ナレ蔓ハ括蔞(クワロウ)ノ如シ是モ蔓ニヒゲアリ二種共ニワレモカウ ノコギリ草ニ似タリ別物ナリ又別ニカヤニ似タルワレモカウアリ

二枝九葉草(ヨツハ) 即漢名ヘ ハ淫羊藿(インヤウカク)ノ異名也見本草圖經今地ニヨリ方言然リ

カタクリ 粉(コ)ノ名ヘ草ハ(クサ)ユリト云ト云物與州南部ニアリ米粉ノ如シ餅(モチ)ス葛(クズ)ノ如シ味ヨシ又カタコトモ云

錦荵(キンレイ)加芙(カブ) 苦瓜(ニガウリ)ノ一種(シユ)ノナガキモノ、ヤウナリ長七八寸ナルアリ別種也色尤美シ

行菜(カウサイ) 四五月開小白花與睡蓮不同其花日未時而後入水而不見與睡蓮同浮沉ヲ

南蠻萱草(ナンバンカンザウ) 花黄似鬱金花(ウコンノハナ)ノ葉不相(アヒ)似(ニ)○スゲ萱草(カンザウ)ノ葉小花單葉 漢名紅萱

アサ、花黄ニ小白花ハ金銀蓮ノイフ草花譜ニ出和漢同名コレ白花カキラス白花ハ交レ交ニ金銀ノ名アリ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

金鳳花　有千葉者美可愛　艸良之

牛扁　亦有白花者　和州生山中　牛扁上ニ別之

剪春羅　白花アリ剪ハ秋羅モ同

葛粉　功能本草綱目不詳且不言爲其良品東垣言

乾葛治脾胃虚弱泄瀉聖藥也ト稱ス葛粉和水

爲丸ヲレヒラメ細ニ切テ爲條水煮去水和豉汁加

堅魚末再煮而食味美可比喜嘉穀止瀉補脾厚腸

胃其功不鮮胃虚人可食是本草所不載也

吉釣藤　和州生山中　其根入地融結成香即降眞香　漳州府志

燕子花　溪巒叢笑云紫花全類燕子一枝數葩漳

人名爲紫燕（）篤信曰燕子花又有極而小者其

形狀花容與大者同

甘藤　和州生山中　本草一名感藤一名甜藤李濟翁資暇集曰

甘草藤非國老之藥南方藤名也叢似薔薇而無

刺枝草俱甜故名出在潮陽而南漳亦有　漳州府志　是

國俗所謂アマチヤナルカ

有單葉千葉樓子之異入藥宜單葉之根氣

味全厚蓋上不足者下有餘也

番薯　閩海而南有呂宋國國渡海而西爲西洋呂

宋其國有朱薯被野連山而是不待種植其初入

吾閩時植吾閩饑得是而人足二一歲其種也不與
五穀爭地凡疇畔沙岡皆可以長糞治之則加大
泉人醬之斤不直一錢二斤而可飽矣 是與甘藷不同長崎
多長崎ニテハアカイモト云 本艸ノ黄香ノ一ナリ云

香菜 月令廣義曰蘹也有數種宜肥地種之此與
荊芥同氣味而異浙地甚多中州亦蕃又有香草
似之此乃蘹菜非是蘹香○今按日本有稱蘹香
者與本草所言蘹香形狀相似而其香不同不可
做藥而用疑是蘹菜乎

蘭 葉ハ大葉ノ麥門冬ニ似テ花香シ本編ニ眞僞ヲ
辨ズ日ヲ不畏只甚畏ヲ忌初テ移植タル時ハ水
ヲソソレバヨクソダツ既ニ久ケレバ不畏日春寒風ヲ忌ム比
車園史ニノセタリ

麻 ニ雌雄アリ雄ハ花アリテ實ノラズ種子ヲ取ンタ
メニ麻ヲウユバ雄ヲ早ク抜去ベシ凡草木ニモ亦有雌
雄不可不知

柳イチゴ 葉ハ如柳其幹如柳樹頗大ナリ高五六ハ
尺無刺駿州薩陲山ニ多シ葉ノ表深緑色裏白シ
三月末開黄紅白花五月子熟黄赤色味頗甘シ
無毒可喰其花一處ニ叢生スル子モ亦然リ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

吉祥　葉如萱小ナリ○四時一色生泉石中山村人以挿瓶祀先雖在陰宇葱翠不凋家有吉事定自開花故名吉祥（漳州府志）

重樓金線　蚤休トモ云葉二三層アリ根如大菖蒲（従前ノ和名ナシ）

牛膝　本草約言曰有雌雄二様雌小節細莖青堅脆無力雄大莖紫根長柔潤有功今用ルニ專雄牛膝ヲ可用雌ハ不可用

○菜類

老茄　莖宜爲牙杖不傷牙歯本草綱目陳茄樹燒灰牙歯蟲痛傅之先以露蜂房煎湯漱過ナイヘリ又莢莫ノ莖ヲ爲牙杖日用之治牙歯動痛○

茄子ノ鹽藏セルヲ爲種ウフルニヨク生ス此奇事也

南京芋　長崎ニ多シ常ノ芋ヨリ味佳

甘藷　ハ性良シ本草綱目ニイヘルガ如シ然レドモ甘美ニシテ濃味ナリ日本人食ヘバ多クハ傷脾胃ヲ毒

草ナリト云タトヘバ參芪甘草ハ雖良藥日本人多服スレバ滞塞スルガ如シ○甘藷ヲ多クタモツ法

稲積ノ下ノ土ヲ堀テ可埋又竈ノ前ノ土ヲ堀テ埋ミ或ハ南ニ向ヘル岸ノ傍ニ穴ヲ穿糠ヲ入テ其上ニ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

並ヘ置上ニモ糠ヲ掩ヒ其穴ノ口ヲ泥土ニテフサクベシ煖國ニテハ不如此シテモ不壊コレハ寒地ノ事也

薯蕷 紅蕉根等ヲ保モ此法ヨシ

菎蒻 和名久比 其葉莖他草ヨリ早ク枯ル其根ニ灰ヲヌホフベカラズ枯ヤスシ 蒟蒻 本朝

赤芋ノ根衆芋ノ内ニテ味尤スグレテヨシ白芋ノ根ハ火 蓮芋ノ異名 芋ヲ食ス

ニシテ食フベカラズ

薯蕷 薥ノ訛リ 別ニ一種味甘キ事如甘藷アリ其狀如常

紫蕷 李中梓曰雙面紫者佳不敢用麻黃必少代之 今ノ世チリメン紫蕷ト云モノヨシウラヲモテ織

紫味モ氣モヨシツチノ紫蕷ニサレリ其葉チヾミ故ニチリメン紫蕷ト名ツク其子朝鮮ヨリ來ル故ニ朝鮮紫蕷ト云食品ニモ藥ニモ可用之汗ヲ少シ發ス故ニ輕症ニ麻黃ニ代用ユ他ノ紫蕷ノ苗ト子トヨリステ、是ヲ可種秋實ノリタル時即地ニ蒔ベシ易生春ニケバ生ジガタク消ヤスシ チリメンシソ 面皺シソ 田ニ蘇ヲ綱銹蘇ト呼

胡瓜 ソバカスノ別ヲ云 白アリ黃アリ白ハ味黃ニサリ久ニ堪フ臭アシカラズ黃ヲ不植シテ白ヲ可栽

薤 八六月土用ニホリ出シテ子ヨワカチテ一日ホシ其翌日土ニ一根ツヽ別ニアケクウフベシ一處ニ二根付合テウユベ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

カラズ。クサリヤスシ。ポリ出シテ久ク。ホスベカラズ。又湿ニ
アタレバ。クサル。ワラヲイムヌウヘ付ニシテ其ウヘヲクハア
シ。葉生シテ二四寸ニナラバ。小便ヲカケテヨクフミ付
ベシ。ウグロモチナドウゴモテルハ。コトニヨクフミテカタクス。
如此スレバ根大ナリ。地和ナラバ時々フミカタクスベシ。
肥ヲヨシバクカケテヨシフミ付サレバ根小ニシテ長シ。フ
ミ付テ肥セバ根丸ク大ナリ
薩摩大根　常ノ大根ヨリ大也皮アツシ根モ寒ニイタ
ツス甚カラシ煮レバ味甘クヨシ雪霜ニ當リテモ氣味
カハラズ葉ハ常ノ大根ノ如シ但心ノ葉スグニ立ノボル
古葉ハ側ニ垂ル是亦常ノ大根ニコトナリ肥シテヨク
作レバ甚大ナリ地上ニ根出テモ寒ニイタヅス葉莖ノ
味モ常ノ大根ニ不ナレリ
蕃椒　能ホシヨクカハキタル時俄ニ末シテ糊ニ和シ紙或
棉布ニヒロゲ凡人身疼痛ノ處ニ貼ベシ能愈ユ腹痛ニ
ハ腹ニ貼シ頭痛ニハ頭ニ貼シ手足痛ニハ其處ニツク甚ダ效
アリ時氣感冒ニハ三四ノ椎ノ間ニ貼テ被ヲアツク
キテ汗ヲ出スベシ又蕃椒青キ時トリ細ニスリクダ
キ鹽ヲ加ヘテヨクナメ置諸食ニ少シ加フ○蕃椒ヲ諸鳥
好ンテ食フ鷄ナド甚好ム諸鳥ノ藥ナリト云猫ノ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

藤天蓼ヲ好ンデ食フガ如シ
鹹草　文獻通考四裔考曰女國在扶桑東千里食鹹草葉似邪蒿而氣香味鹹○鹹草ハ本書ニ載タリアレタト云草也ハ丈カ島ヨリ來ル今本邦ニモ處處ニウフ女國ハ丈ガ島ヨリ本編ニ詳ナリ
佛ノ座　葉ハ小錢ノ大サナリ莖ノ高數寸淡紫色也其葉ハ莖ニ付テ燈臺ヲカサ子タル如シ數重處々ニ下ヨリ上ニ間ヲヘダテ、カサナレリ正二月圃ニ生シ紫色ノ花サク賤民飯ニ加ヘ食フ是古ニ用ヒシ七種ノ菜ナルベシ一說ニ佛ノ座ハ田平子也其葉蓮華ニ似テ佛ノ座ノ如シ其葉多ヨリ生ズ
土筆　山野間地ニ生ズ春月先生花ノ如筆嫩時可啖爲佳疏別生莖葉名ノ杉菜似杉漢名未詳中華書ニ未見之此根直ニ土ニ入コト甚フカシ或外治醫此根ノ陰干ニシタルヲ用テ金瘡ノフカクシテ藥力下ニ通ジガタキニ加ヘ用テ驗アリト云又灸治ニモ凡深山幽谷ノ人里遠處ニハ往々異草奇木多シ草木

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

ウルハシク高シ人里近キ所ハ不然ラ
食物本草曰右諸菜皆地産陰物所以養固宜食之
丹溪云司疎洩者菜也謂之蔬有疏通義焉食之
則腸胃宣暢而無壅滞之患先儒曰人若咬得菜
根則百事可做故食菜既足以養身又有以養徳
也

草木菜蔬等宜食物五品アリ清潔ナル也芳馥ノカウバシキ也髪脆食之テヤワラカニモロクヤスキ也美味ノウマキナリ性良食シテ性ノヨキナリ右此五品ハ皆宜食物也
朝鮮昆布コブノ一種ノワカメナリ裙帯菜ニ似テ廣サ四寸許長コト三尺

許形狀昆布ニ似タレドモ短薄ニテ氣味モ裙帯菜
ニ似タリ西州ノ海ニ生ズ
本草李廷飛曰籜下雨滴菜亦有毒不可食之○又
北ニ向ヘル籜下或東西ノ籜下ニ生スル菜モ日カゲ
ニアルハ不可食
裙帯菜 食物本草ニ所載ワカメナリ救荒野譜所
載爲江豆蓋二一物而同名者也多食シレハ腹痛ス
○穀類
秈 凡異邦ノ南國皆種之爲粮其價甚賤毎百斤
直銀二三匁今日本ノ諸州アマネク種ヲ早ク熟ス

最民用ニ利アリ性カロクシテ病人可食久ニ堪ヲモ
ミニテ貯レハ二三十年ヲ保ツ
沙蒸米 蕃人曰榎木ノ如ナル木ノ皮ヲツキクダキ水ニ
浸シテ粉ヲ取水飛シテ水ニテ丸ズ此説イブカシ難信シ
蒸根ノ粉ナルベシ
餲 急就章曰餲之言散也熬稻米飯使發散也古ニ
謂之張皇亦曰其開張而大也倭俗此ヲハゼト云
細末シテコガシトス
又曰以蘗消米取汁而煎ジ漉弱者爲餳厚強者爲
餳麥芽ハヨク穀ヲ消ス

三尺黍 其莖蜀黍ヨリヒキシテ其高三尺バカリニ不
過莖葉ノ形狀ト實トハ蜀黍ニコトナラズ味ハオトレリ
秋稗 毛多シ猪鹿不食故ニ農是ヲ好テ種フ
女麪 小麥ヲ不爲末ニルナガラ蒸シ爲飯上ニ草木
ノ葉ヲオホヒテ黃ナル麴ヲトシテ用ユ小麥ノニルカウジ
ナリ
黃蒸 ハ小麥ノ粉ヲカウジニシタルヲ云又米粉ニテモ製
ス是與女麪相對セリコカウジナリ
五穀ハ何レモ各品類多シ就中稻品最多シ中華ノ書
ニ見エタリ本邦ニモ多シ其名異リ粟モ亦種類多キ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

事稲ニツゲリ八十餘品アリ猶モ諸州ニ多カラント
云麥豆モ亦數品アリ

○蕈類

黄ト地（黄濱菌ノ細目）西州ニテハ金蕈ト云京畿ニテハ黄ト地ト云
京畿ニ稀也シメヂノ黄ナル也松（エツ）蕈ノ未開（カ）ニ似テ小也
味好スコシ松氣アリ松樹ノ下ニ生ズ
薩摩（サツマ）ニアコフト云蕈アリ松（エツ）ダケノ未開（カ）ノ形ノ如シ臭（カ）
ナシ味カロクシテ好シメヂニ似タリ夏月アリ長四
五寸土俗ノ曰性ヨシ毒ナシト云
本書ニ載タリ既老（ツチカナヒニ云馬勃ノ熟ク古説石灰菌ニ出ツ）タルハ血ヲ止能久ヲタモツ

他ノ物ニ二サレリ
椎耳（香蕈ノ早）フナノ木ニ生ズル者形狀ハ同ケレ𪜈有毒或殺
人不可食今世或生椎耳ヲ食シテ死者アリ無知（下知ニ）
其故者蓋フナノ木ニ生ズルヲ食スル歟可擇木耳ナ
ド木ニヨリテ其性良毒アルガ如シ

○木類

椰子（俗ニ云ヤシ）西蕃人曰印度ノ椰子大ナリ木ヲ爲柱ト久不朽ト
以葉葺屋以實爲食油ヲ煎ヲ用ユ又用木皮綯ノ
繩トス實ノ苞ノ皮ヲ爲索（ナワ）強シテ不朽其用多シ俗
ニヤシホト云ハ誤ナルベシ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

蠻 ルザラシ 功能既ニ見本編ニ蠻語ナリ紅黄ノ名スランカ

和品 ホウト、云ソロルト云國ニアル木也 本理細カレテ白檀ノ如シ外皮ハ淡栗色ニシテ味苦シ故ニ白クスルトス味淡

カラナレ(栗梨ニ似ル生テ乳汁アリ)ノ白キ小樹ナリ葉如肝木ノ木ハ如櫻桃ノ秋熟紅如櫻桃味甘帶微苦可啖

同 イミレギ 葉及花如穗其花如聚八仙爲重重多花

同 枝花白實初青後紅 テ大ニ四メ長止アリ里名ク名五ヘン白名ク

鬼樝木 葉樝木ヨリ大ニシテ又堅ニ有刺如樝木葉ノ

岐五叉アリ

巴旦杏 巴旦國ニ出南國ナリ

ソノイケ 似木瓜ニ有刺 リサホケシ指スヤ九月ニハクサホケナレト云

山燈心 漢名未詳 既ニ見本編莖ニ付テ重々花サク頗美ナリ

一枝ノ内ニ四五ニ品ノ花ニ品サク異他物四出ノ白花ハ一房ノ内ニ八九花雜リ開ク 字ニナレ暗国ニ生スルヲ新生トウカラレシ切リ又ハ夏月花ヘリスニ中ハ赤ク花名俗ニ大ナル物和ト云

茶 朝野群載都良香銚子ヲ銘曰多煮茶茗飲來如何トイヘリ都良香ハ清和帝ノ時ノ人然則茶之來于吾邦也尚矣子ラウフルハ後代之事也古ハ和漢多ハ抹茶ヲ熱湯ニ點服ス近世ハ煎茶ヲ用ユ

本草拾遺曰人飲眞茶能止渇消食除痰令人睡利水道明目益思○神農食經茶茗久服令人有力悦

志○篤信謂東坡李時珍甚貶茶性之不好然如本草拾遺及神農食經二書所言則與蘇李所貶異且服之久則習慣而不傷人吾試之久矣覺有益而無損但不宜多服耳且茶性能收斂故令人有力

因話錄曰茶須緩火炙活火煎活火謂炭火之有焰者又ルキ火ニテイリ。ツヨキ火ニテ急ニ煎ジニエバナヲ早クノムベシ又煮ルトキ冷水ヲ少シ加フベシ是茶ヲ煮ル良法ナリ苟不如此雖好茶然不美

東國通鑑唐太和二年遣大廉如唐得茶子來是朝鮮種茶子之始

綾杉　樹ハ常ノ杉ニ同シ葉ハ異リ綾ノ紋ノ織亂レタルガ如ニシテ美ハシ筑前州香椎ノ宮ニアリ古歌ニ多クヨメリ京都龍安寺ノ前池中ノ島ニ此木一株アリ又山科勸修寺ノ茶屋ノ南宇佐八幡ト号スル祠ノ前ニモアリ他處ニテハ未見之

沈香　有七品

奇藍　新奇藍　眞南蠻　二十カ。

サソラ　ラコク　藤門多刺　右分レテ六十二種トナル

綠萼梅　葉常ノ梅ニカハレリ常ノ梅ハ新芽ノ梢紅ニ此

梅ハ新芽モ青シ實小ナレ𪜈清潔ニ見エ其萼青シ
故ニ名ヅク其香ノヨキ事常ノ梅ニマサレリ中華ヨリ近
年來ル今處々ニアリ
杏 カラモヽト云 カラモヽト云ハ李ノ時ニ桃ノ
アシスハ李子ノ時ニ
カラモヽト訓ズ イツヨリ日本ニ來レルヤ時代未詳
水柏 葉ハヒナ、キニ似タリ花ハ紫ナリ黑實アリダモ
ノ實ニ似タリ
本草綱目紙下時珍引藤易簡紙譜曰蜀人以麻閩
人以嫩竹浙人以麥麨稻稈吳人以繭楚人以楮
爲紙
棣 常棣也其子熟時正赤色可啗俗呼爲山櫻桃

急就章 ユスラノ類ナリ花白シ又淡紅花アリ
ダモ 生水ヲ新ニシテ湯ヲワカセバ其湯味アレ、
檉 爾雅檉河柳郭璞註檉河旁生ズ赤莖ノ小楊也
今按ニ山中ノ河邊ニ多シ然𪜈非ニ類是樹也本
瑞香 本草綱目芳草門ニ入ル
草集解時珍説亦ダ木ナリ是國俗所名之沈丁花
也時珍誤テ草類ニ入ルナルベシ又白花ノ者アリ結
有黃白紫ニ色ト云リ又曰欒枝者花紫香烈其
節攣曲如斷折之狀今按本邦所在是攣枝歟

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

飛彈國位山ニ所在イチイノ木ハ樞ニ似テ赤子ヨムス
ブ作ル物木ナリ既ニ本編ニノス但檞ト和名同シテ
物異ナル事ヲ知ベシ

シホギ　堅木ニ似タル木也鎗長刀ノ柄トシ木カトシ
棒トスカロクシテ折レズ夫木集ニ九寸ノ歌アリ

ビレウ　西州所々島ニアリ高七八尺餘其葉ハ椶櫚
ノ如シ椶櫚ヨリ葉ノ莖短シ木ハ杉ノ如ク直也皮ノ
肌ハ椎木ノ如シ枝ナキ事椶櫚ノ如シ

因幡ノ細川梅白キ八重ナリ有香近年他州ニモ植ル

紅夷柑樹　葉實皆ク子シホニ似タリ實ニルレツ子ノ

柑ヨリ肌細ノウルハシ九月ノ比味甘シ熟シテ後味
谷テ酸シ

薩摩ニ佛相花ト云花アリ木ハ丹ジ花ニ似テ葉ハ木
芙蓉ノ如シ花ハムクゲニ似テ紅ナリ六七月花ヲ開
ク久キヲ歷ル　一日ニ花ヲ數ヲ知ラズ

合セ香ニ四種アリ　燒香　掛香　貼香　食香ナリ　燒
香ハ百和香龍涎香及奇南沉香檀香ナトヲ云掛
香トハ香嚢香ノ玉ナドヲ云香ヲ袋ニ入緒ヲ付テ
クビニカクル貼香トハ兵部卿花ノ露ナド身ニヌル
ヲ云食香トハ透頂香香茶餅ナドヲ云合香ハ練

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

香ト云又雑穀ト モ調香ト云是輸耕錄ニ出タリ
又百和香ト云日本ニテモ百和香ト云古今集ニ
見エタリ又合セダキモノト云今俗ハタキモノト云
百和香ノ方和漢多シ
東牡丹 梅ノ大ナル者奥州ヨリ來ル花二重ナリ
甚與常梅異ナリ
山海經蓇山有木其狀如棠而赤葉其名曰芘草可
以毒鼠
管家文草卷二有九日侍宴賦菜黄ノ杖ヲ載ル今
試ルニグミノ木ノ杖ヨシ可試用

椎栗ノ類其實歲饑乃熟ス
石南 葉如枇杷有小刺凌冬不凋人多植庭宇間
陰翳可愛不透其木堅勁可爲杖柯國俗ヒヤクナン
ゲト云其花美好可愛ス
茯苓 有大如斗者有堅如石者絶勝其輕虚者不
佳蓋年淺未堅故爾凡使去皮心搗細攪盆中浮
者濾去之此係赤筋誤服損目茯苓若松ノ下ニモ
生ス性輕虚ニシテ不佳不可用大ニシテ堅ハ無赤筋
シブカキノダイニ甘カキヲツゲバシブキ味ナクシテ甘キ
實ノナル事ハ如何曰主木ヨリ客木ニ氣流通シテ

主木ノ精氣ヲ以テ客木ヲ養フ故ニ客木不枯レテ生長ス是主木客木氣通スル故也主木下客木ノ枝ニ實ナレバ主木ノ枝ニ實ナル所ノ客木ノ枝ニ實ナルヨリ味ナク客木ノ甘キ味ノミナリ是質異レハナリ

木カニ用ル材　白カシ爲上品枇杷毛次之枇杷ノ木ハ木カニシテ強クシテ不折然レドモ打冷時音アシ橙モツヨレ赤ガレ次之ニシホヂハ白カシノ別種ナリ下品ナリ葉黄ノ木亦良鎗ノ柄ニハ白カシヲ爲良桁欄モ良具足箱ノ棒ニハ山柿ヲ爲良白カレ次之

山茶ノ葉蟲苗葉ノウラニ一處ニ多ク聚リ生ス毛アリ毒虫也大ニ木ノ害トナル早ク除去ベシ不レ去ハ葉枝枯レ本木モ憔悴シテ榮ヘズ時々見テ此虫ヲ去ベシ此虫人ノ身ニ火觸レバ忽チ腫ル目ニ觸ガレ尤目ノ腫ルヽ甚シキテ落スベシ佛甲草ヲスリテ付ベシ山茶樹高ニ不宜宅中ニ植ルニハ梢ヲ切テヒキクスベシ高ク聳ズ花ヲ見ルニヨシ又藩籬トスルニ梢ヲ切ベシヨクレゲリテ籬トスルニ宜シ

季中梓カ藥性解ニ陳皮採時極熟酷性漸藏收藏

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

又陳久多歷梅夏而烈氣全消溫中而無燥熱之
患行氣而無峻削之虞乃大全以爲多日獨用有
損脾胃師心之過耳是李中梓所謂陳久勝新者
テ久服無害事ヲ云リ陳久ナルハ然ルベシ○陳皮ヲ炭
火ニ投シテ蚊ヲ退クベシ

潛確類書曰奇南香一作琪楠一作奇藍一作迦南一作伽羅也
其木最大○篤信曰是倭俗所謂伽羅也

藤合香　潛確類書曰梁書中天竺一出藤合是諸香
汁煎之非自然一物也又曰大秦國采藤合先煉上
其汁以爲香膏乃賣其滓與入展轉達中國不大

香蛇　香ハカタクシテ久シクモノ油カトリセナノ如シ此ヲ蒲香ト云

枸櫞　マルブレンカン　人ノ指ノ如ナルハ佛手柑ト云不然ヲハ枸櫞上云
春ニ至レハ味甘シ此樹寒ヲ良ル
カラノミツキ　マハアリノタラヤリノ物ニ清ニ冬月ヨリ有
冬紅キ實ナル一顆ノ大サ南天燭ノ實ノ半
ヨリ小也一穗長サ二三寸一穗ニ叢生スル事栗ノ
穗ノ如シ甚美麗ニシテ可愛其樹高サ二三間ナルア
リ實ノ紅ニシテ美ナル事玉ミツキニ似タリ
河太郎　水虎　スナ　ト相撲トリタル人正氣ヲ失ヒ病スルニシキニノ
木ノ皮ヲハギ抹香トシ水ニカキタテ奉スレバ忽チ正氣ニ
ナリ本復ス屢用テ效アリト云シキニ八莽草ナリ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

木ナレ𪜈本草綱目毒草類ニ載タリシキミノ抹香ヲ佛家及世俗ニ燒ク術者伊豆那ノ法ヲ行フニ此抹香ヲタケバ彼邪法行レズト云伊豆那法天竺ノ茶著尼天ノ法ナリト云イヅナトハ信濃國ノ山ノ名ナリ彼山ニダギニ天ノ祠アル故ノ名ヲ以其法ニ名ヅケレナルベシ

ヌギ
米櫻　小櫻ナリ其木及葉花皆似櫻而甚小ナリ木高四五尺ハガリ花ハ單ナリ花多シ凡品物二大小アリ是櫻ノ小ナル也此花常ノ櫻ト同時ニ開ク根ヨリ多ク叢生スル又小米櫻アリ別ナリ

チヤン　異邦ヨリ來ル松脂與他ノ油煉合タル物ヲ也船ノ
松脂一升胡麻油二合是ハ鐵ニヌルニ宜シ
松脂一升胡麻油二合是ハ木ニヌルニ宜シ
諸具ヲヌリテ水ニ入テ不朽又外治ノ膏藥ニ加ヘ用ユ
○日本ニテ作ルチヤンノ法ハ
松脂一升胡麻油三合是ハ綱ニヌルニ宜シ
桐油ヲ作ル法　荏桐ノ油一升荏若ナクンハ胡麻芥子ノ
油モ可也　石灰一合ヨク抹シテ油ニ合セ用ユ右器ヲ
大ナルニ柿ヲ葉カクレト云或長ク大ナルアリ冬月

霜ヲヘテ紅ク堅キ時枝ヲ付テ莖共ニ切皮ヲ去リ
絲ニテ枝ヲ結ビ二ツヽ竿ニカケテ毎日日ニ乾シ日
日手ヲ洗テ押扁メヨク乾タル時ヲサメテ箱ノ底ニ
乾ケル蕎麥稈ヲシキ其上ニ乾柿ヲナラベ蓋ヲシテ
置久クシテ霜ヲ生ズ如此スレバカビ生ゼス
和活カ柚　既ニ本書ニ著ス其實味ヨシ枝多シテ扶疎
タリ高六七尺ナルモアリ喬木ハナシ
花柚　一說ニ此果樹上ニアリテ夏花サク ニテ其果不
脫シテ樹ニアリ故ニ花柚ト名ヅク大柚ハ樹上ニ久ク
アレバ腐落ス今按ルニ此說不可用花柚ノミナラス柑

橙金橘ナド花サキテモ實不落シテ木ニアリ然レバ
花ヲ用ル故花柚ト名ヅクト云說可ナリ花ヲ酒中ニ
浮レバ香ヨシ

棣棠　本書ニ記ス其花ヲ陰乾ニシテヨク乾タルヲ袋ニ
入納置金瘡血出ルヲヨクトヾムル細末セズシテ其ノ一ツ
クベシ

野薔薇　二種アリ一種ハ木高キ事五六尺花ニ香ア
リ一種ハ木不高地ニハヒテ生ズ其葉厚クシテ有光リ
花モ厚クシテ香ウスシ花ヲソシ

○什類

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

紫竹　本草時珍曰紫者黯色點然夕リ今按二紫竹
（大サ一寸ヨリ若竹ノ如シ）洛北此ヲ竹ト称スル
筍生シテ初一兩年ハ色青シ三年ニシテ色紫ニナル
宋子景カ方物記ニ出タリ今試ルニ然リ

班竹　日本ニモアリ本草綱目時珍曰班者駁文點
（コノ竹ニ大サアリ唐ニハ班ニ種ノ名アリ）
染或曰此竹ヲウト云國ヨリ來ル故ニヲウト名ヅク。
（人ヲウリト云ハ竹ヲ持テ乞フ者ヲ云ヘリ）
ラウハ南國ナリ　（俗ニ班竹ト称スル竹ハ細ク節ノ間紅色ナルモノヲ云ヘリ）

金竹　時珍曰黃者如金（金ハ色ノ名ナリ）今按二本邦亦有此種
黃竹　（コレヲ金竹ニ対シテ通名ヲ小竹ト云ヘリ）通志云小而黃色一名界金竹汀州志曰其
（ソノ竹ノ出ル所ノ府ノ名ナリ）
筍季夏方生（ス）（ソノ色ニ種アリ忌諱ヲ引テ出ル所ノ名ヲ以テ名ヅケシ者ナリ）

鳳尾竹　漳州府志曰梢葉森秀如鳳尾然
（ソノ色ニ種アリ忌諱ヲ引テ出ル所ノ名ヲ以テ名ヅケシ者ナリ）

舊志觀音竹本編ニ鳳尾竹ヲ載スル
雪竹　（カンチクノ一名アリ）漳州府志曰筍生ス冬春之交泉州志味清甜
（ソノ竹ノ性寒ノ故ニ名ヅク）
謂之雪竹今按ニ是俗所謂寒竹ナルベシ寒竹ハ
本書ニ載ス

大和本草附錄卷之二

貝原 益軒 輯

○禽類

カズワル（左綱ノ駝鳥ノ又名ニ非ズ）蠻語ナリ火食鳥ナリ大サ四尺バカリ本草ニ所謂駝鳥ナルベシ（頸ハ鶴ニ似テ長シ羽ハ皺毛ニ似テ冠アリ躰ハ駱馬ニ似テ喙短シ足ノ雉ノ如シ白黒紅毛ニテ長ノ黒毛羊毛ニ似タリ二脚ノ馬カ代リニ荷物ヲ負スト云）

鸚鵡（オウム）本草ニ曰俗名鸚哥（インコ）陀羅尼鳥ナルベシ（白黒紅毛ニテ牛馬ノ代リニ荷物ヲ負スト云）

唖々鳥（ハヽ）（叫伏流子ノ如シ）既ニ本編ニ（ノ条ニ）載ス喙（嘴）ト足ト黄ニシテ羽毛ハ皆黒シ唐繪ニ多ク畫（カク）ケリ舌長シテサキハ血肉ナシ瓜ノ如シ是ヲ切レハ能言フ血肉ニ非ザル故切テモ害ナシ

小ハシ　背ハ黒褐色腹ハ淡黒色嘴ノ鋒黄ニ其本及額上紅ニ腹胸ノ毛ハ背ノ毛ヨリ淡黒ナリ翅縁ナリ尾ノ裏白ク脚ノ節紅ニ脚及爪青色水カキナシ指甚長シ其大ハ鳩ヨリ大ナリ頸少長シ翅鳩ヨリ短シ味美シ夏川ニハコレヲ食用トス（漢名鵁鶄古名梅首鳥今俗ニ仙臺ニテハ名ク呼フ水禽ノ品類ニ入ル）

本草鷸ハ嘴脚長ト云鷸ニハ不言嘴脚長然則鷸ハ嘴脚短キニ非ズ但ボトシギモ鷸ノ類ナルベシ時珍云鷸與鷸形狀相似俱黒色但無斑者爲鷸ト本編ニ鷸ヲ載ボトシギトスアヤマレリ（ヲレロレキ左ノ鷸ハフナレウスラヘ）

佛法僧ト云鳥未木二十七慈鎮歌ニヨメリ（山鳥和名ミヤマカラス）

都鳥　畿内及播磨ニモアリ夫木ニ歌アリ越ノ海ニモ（京ニテレ都ノ名ニ因テ名ク休黒ノ腹下白ク嘴足赤サヨメリ鷗ノ名未詳）

チドリ　本書ニ載タリ雀ヨリ大也足ハ前三指後指ナシ歩ム事ニ足ヲ左右ニ手カヘテ走ル人ノ歩ム事コレニ似タルヲチドリ足ト云

アヂサヰ　大サ青サギ程アリ黒鶴ニ似タリ日本ニ無之異邦ヨリ來ル事アリ

朝鮮ヅル　黒ク小ナル也（黒ツルノ類ナリ）

鵁鶄　鵁鶄出鳥鼠同穴山〇爾雅曰其鳥爲鵁鶄其鼠爲鼵（書経ニモ出ツ）鼠爲鼵其穴入地三四尺鼠在内鳥在外孔氏書

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

傳云共爲鴫同穴而處（潜確類書）

モズ　本草綱目伯勞九ヽ說ヲ載タリ何レノ鳥ニヤ未詳曹植惡鳥論ニ云鵙聲嗅故以名之感陰氣而動殘害之鳥也○モズハ八月陰氣ニ感シテ鳴惡聲ノ鳥也且小鳥ヲ殘害ス

報春鳥（ホウシュンテウ）　顧渚山茶記云山中有鳥如鴫（柴鶴鴫ニ似テ呼ブ聲亦相ヒ類ス）鴫色蒼毎ニ至二三四月一云春去也或云二月作聲云春起也至正ニ信曰此說可疑ウ

日報春ハウグイス成ベシト云篤

クイスハ別ニ是一鳥

異名記云登州海岸有鳥如鴫（ハヤフサ）名海東青（サレバ）擊物最健按ニ是ナルベシ（サレバハ鶻ノ如ニシテ小也其性健ナリ）

海雁（ミガン未詳）　在海（中ニアリ）其大ハ比（ヨク）常雁微小也色如灰色（ノ）味及足黒其頸有如環（ノ）白毛翅（ノ）短シ在江戸

水鳧（未詳唐山ニ水鳥ノ數カ）　アヲクビノ鳧ヨリ小ナリ嘴ハ短小ニシテ鴈ノ如シ頭ニ勝アリ頭白ク頭ノ兩ワキ黒ク光アリ背黒ク兩ノ翅黒クウラ白シ翅ノ末黒ク端白シ尾短シテ淡ノド腹皆白シ翅ノ下ノ腹ノ方細文アリ尾短シテ淡黒也足ハ水カキアリ鳧ノ如シ味不美

倒掛（タクヒ）　モロコシノ廣西省ノ土產ノ鳥也毛ノ色青綠逆（鉛赤ノ小鳥ノ形インコノ色ノ大サウリこくまとく倒ニ掛ル時ハ啼ク）

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

杖ニトマリ首ヲスボメ小ク
木ニ止ル異鳥ナリ倒ニカヽルガ如シ
雀美ニメヅルシルシ小ク多クハ二帯ノ紋ニ似タリ
入内雀　俗説ニ日本朝ノ實方中將罪アリテ歌枕求
ラナイスメ
ニ東ニツカハサレシニ歸京セズシテ死セリ存生ノ間何ニ
モシテ今一度禁裡ニカヘリ度思ハレシ其靈化シテ雀
トナリ禁裡ノ臺盤所ニ飛來リ食物ヲツイハミシ故
是ヲ名テ入内雀ト云俗ニアヤマツテミヤウナイ雀ト
云トイヘリ常ノ雀ヨリ小ニシテ赤色ナリ
日光ニ居ル鳥ちゝ川尾日光名ヲ雀ト云
三光鳥　雌雄異リ雄ハ形鳥鳳ノ如ク大サ四モズ程アリ
頭ハ凌黒色目ノフチ及觜ノキワ翠色アリ翼胸尾
腹ノ毛淡黒色尾ノハバセバク尾ノ長一尺許雌ハ頭微
黒色翼胸尾共ニ黄赤黒色形大體吉原雀ニ似テ首
ノ毛異リ腹ノ毛ハ雄ニ同シ常ニ山林ニスンデ不地下
人ヲ見テヲソル

○獸類

野猪　世俗往往ニ以テ爲性不良爲不益人然今試ニ
少食ヘバ不發病世人貪其味美喫過多故損人而
已綱目野猪説曰不發病減藥力與家猪不同又
曰不發風虚氣多食腸風瀉血ヲ治ス食醫心鏡曰
久痔下血野猪肉二斤著五味多空腹食之作美
亦得孟詵曰脂令婦人多乳治疥癬今按三癬瘡

久不愈ニ野猪ノ肉ヲ食シテ全愈

熊羆麅　時珍云ニ種一類也如豕色黒者熊也大而色黄白者羆也小而色黄赤者麅也建平人呼熊是矣羆遇人則人立麅爲赤熊陸機謂羆爲黄熊形如馬而攫之故俗呼爲人熊爾雅翼云熊者馬熊形如馬即羆也倭俗ニ馬鬼ト云牛鬼ト云者皆是羆ナラン國俗羆ヲ不知シテ奇怪ナル鬼類ト思ヘリ熊掌得酒醋水三件同煮熟聖惠方頌曰熊性輕捷好攀緣上高木冬蟄入穴性噉鹽食之即死

獾　其角ヨク毒ヲケスウンカフルハ蠻語ナリ犀ノ一角ヲ蛮流エンカウルンカフト云本綱骨筭犀アリコノモノ類乎

猫ノヨク鼠ヲ取ハ晝ツ子ニ子フル終日ウゴキアリク猫ハ能ナレ此説徐氏筆精ニ出タリ今試ルニ然リ猫ハ至テ不仁ナル獣ナリ非有良能則不可畜○相猫法本編ニ記セル本草綱目載之者可信猫鬼ハ隋書ニ出タリ日本ノ犬鬼蛇鬼ノ類能爲人祟者也日本ニハ猫鬼ナレ猫ニタハ金花猫（地名）ト云月令廣義ニ出タリ

犛牛（番舶ニ来ル）　時珍曰居渡山中野牛也狀及毛尾倶同駝

牛狨小而聲大
狨牛 同上 時珍曰毛雜白色ノ以テ為牛狨毛ノ異船ニ載來ル赤熊黑熊ニスルハ白熊ヲ赤黑ニ染タルナリ白熊ハ不染毛ナリ陝西有ノ
飛ヨリ出ル 略ツクリケ牛羊ノ乳ニテ造ルモノ今ハ琦陽ニテ多血ニテ造ル
ホウトル 蕃船ニ載來ル牛乳ヲ煉タルナリ峻補ス血氣ヲ
馬角 呂氏春秋曰人君失道馬有生角〇京房易傳曰臣易上政不順厥妖馬生角〇篤信曰馬生角非禎祥而妖孽也吉事ニアラス不可爲珍實然ルニ國俗不知之是爲祥瑞不診乎 神ニアルモノトス云今匈奴曲ノ馬角トシテ宝物トス奇異ニ堪セリ俗ヘ

猪豨 フタメキモノニアラス豕ナリ 本草綱目王圻曰在猪喉系下肉團一枚大如棗微扁色紅〇今按ニ猴棗モ亦此類ノ猴ニアル物ナルベシ
猶豫 洗ろし 朱子楚辭註曰猶犬子也人將行犬好豫在人前待人不得又來迎候故謂不決曰猶豫〇今按ニ猶豫ト狐疑ト相對ス
狐疑 同上 又曰狐多疑而善聽河氷始合狐聽其下不聞水聲乃敢過故人過河氷者要須狐行然後敢渡因謂多疑者爲狐疑
狐媚叢談曰狐性善疑方河氷合時狐聽氷下水無

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

聲乃行人毎則之皆須狐之已行乃渡○篤信嘗
聞ケリ信濃諏訪ノ湖ニ冬氷堅クナレバ狐先渡ル人
是ヲ見テ其後湖上ヲ行春氷泮ル時狐先渡ル人
是ヨリ不行湖上ヲ
花猫 三毛猫 湖廣省ヨリ來ル 三色交ルヲ云
猴衆 バサルヘイタラバサル也羊ノ如ナル獣ノ胃ノ膵ニ在
ズル石ノ玉也萬ノ毒ケシニ用ユ其外功能多シ
トロンベイタ 蠻語ナリ川太郎ノ事也其骨藥ニ用ユ
ヘイタルボルコ 猪ノ腹中ニ生スル石ナリ蠻語也
魑魅 淮南子説狀如ニ歳小兒赤黒色赤目長耳
美髪左傳註疏魑魅川澤之神也○篤信曰此説
ヲ見レバ魑魅ハ河童ナルヘシレクハシヤニアラス又クハ
シヤ魑魅トスル説アリ又河童ト相撲トリテ病
スルヲ治スル法右ノ木類ニ菴草ヲ用ル事ヲ記ス
魔 字彙云在鬼能迷人者○篤信云白樂天所謂
詩魔亦是託人而能惱人云凡令人狂者魔也
熊膽ヲ試ル法手掌ニヌリテヤガテ手ノ甲ヲ嘗ルニ苦ミ
アルハ眞ナリ又ナメテ苦味久ク口中ニアルハ眞ナリ
猿ノ膽十ト欲セ物ハ少苦ケレドモ久シク苦カラズ
ムサヽビ 本編ニ載タリ鸛鼠也ソバヲシレキノ事ナリ

夫木ニ爲兼卿ノ歌春日山夜フカキ杉ノ梢ヨリアヽタヲチクルム井ノヒノ聲

賴朝ノ時信濃國犀川ニ犀スム由ヲ聞給ヒ泉小次郎親衡ヲ召テ是ヲ取ラレム親衡刀ヲヌキ持テ水ニ入犀ヲ切コロス親衡ハ朝比奈三郎ニヒトシキ大力ナリ

青中華ヨリ日本ニ鴨鴛鴦猪羊猫ナドヲワタス皆是家ニカフ物ナリ六畜ノ外家ニカフ物ハ鴨鵞鵝猫ナド也

潛確類書曰野干獸名形色青黃如狗群行夜鳴如狼ノ今按ニ是野犬ナルベシ日本ニ多シ夜群行シテ人ヲ食フ既ニ本書ニ載タリ

貂 說文貂鼠屬也而大黃黑色縛毛者也其皮煖于狐貉 出于潛確類書○綱目貂鼠 名栗鼠

○今按ニ一物不同而爲二類栗鼠ハ形大ニ尾大ニ其色黃赤好テ食栗貂ハ形小黃黑尾比栗鼠較小ナリ蓋融之類○栗鼠許慎曰似貂而大

栗鼠 潛確類書曰栗鼠蒼黑而小取其尾毫可以製筆世所謂鼠鬚栗尾者也○鷂信謂潛確類書貂與栗鼠異條可見非一物也一物ト スルハ誤レリ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

淮南子ニ曰猩猩知往而不知來潛確類書註曰猩猩
知人姓字此知往也醉以擒身不知來也
鮮蒼　輟耕錄第四曰蒙古人之禱雨取淨水一盆
浸石子數枚而已其大者若雞卵小者不等然後
默持密呪將石子淘漉玩弄如此良久輒有雨石
子名曰鮮蒼乃走獸腹中所產獨牛馬者最効恐
亦是牛黃狗寶之屬耳　諸獸皆アリ形名イロ〳〵アリ
川鼠　形大抵ウグロモチニ似テ常ノ鼠ヨリ扁ニ尾
ハ鼠ヨリ小ニ短シ四足短ク水カキアリ能水底ヲヨヨ
グ事魚ノゴトクハヤシ常ニ水中岩ノ下岸ノ下ニスム

夜水中ニ泳イデ小魚ヲ喰フ此物西州ニ亦有之

○魚類

仔鯊魚　鰕虎ノ黃ノ
キスゴニモ、ハエニモ似タリギスゴヨリ小ニシテ扁ニ
鯊魚ノ類也目ノ上所ニ近シ江戸ノ虎キスゴニ似タリ

キビナゴ　海鰶ノ黃ノ
海魚ナリ海鰶ニ似テ同類ナリ長三寸餘不
滿四五寸ニ口ハ海鰶ヨリ小也身ハイハシヨリ少厚シ
兩傍ニ銀色ノ筋アリ其筋ノヒロサニ分許頭ヨリ
尾ニ至ル銀色ノ外ニ又黑筋一條アリ鰯銭ヲトスベシ
ビリ、　霍亂腹痛牙齒痛ニ用ユ異邦ヨリ來ル是ハ魚ノ
膽ニ加藥シテ煉堅メタル物也魚ノ血ヲモ云

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

呉志曰王隠交廣記曰呉後復置廣州以南陽滕修爲刺史或語修蝦鬚長一丈修不信其人後故至東海取蝦鬚長四丈四尺封以示修修乃服之

海鰌ノ牙大抵三寸許長六七寸アリ

海女　海中ニ入レニアリ半身以上ハ女人ニテ半身以下ハ魚身ナリ其骨下血ヲ止ル効藥ナリ世ニ人魚ト云者是歟蠻語ニ其名ヘイレムレルト云

海人　在海中其形全ク人ナリ頭髪鬚眉悉ク具レリ只手足ノ指水鳥ノ如ク相連ツテ水カキアリ不能言語飲食ヲ與レドモ不食又一種遍身肉皮ア

リテ腰間ニ下リ垂レ裙ヲタルガ如レ其餘ハ皆人也陸地ニ上リ數日不死

天鼈絲　漁人魚ヲ釣ニ用ル筋ナリ蟲ニテ作ルト云

異邦ヨリ來ル

ヲキメバル　長不過數寸メバルニ似テ肥厚ナリ味メバルヨリ美レ傍ノヒレ色純黒ニシテ長シ不然モ亦アリ自ハメバルヨリ小シ又黒點多キ者アリ其形狀ハ顏同シテ其色異リ○ヲキメバルニ種アリ一種ハ其形モ目ノ大ナル事モ常ノ目バルノ如シ目ノ縁赤ク背ノ色紅ニ黒キヲキ目バルトハ異ナリ細鱗ナリ是亦長事

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

數寸ニ不過

ヲコゼ 虎魚 鈴宮筠 長ハ八九寸アリワカキハ色黒シ老タルハ紅シロ
廣クシテ。メバルノ形ノ如シ又背ハ杜父魚ニ似タリ白ハ
高ク出ツ背高シ背筋ニヒレアリ其ヒレニハリ十六ハア
リ皆人ヲサス人ヲサセバ毒アリテクサル他所ニハハリ
ナシ尾ハ杜父魚ニ似タリ海魚ナリ所々ニ小イボアリ
腹ハ土スリノ如クニシテヒロシ

クチニ鯛 本草 本編不載。形狀大抵不異于鯛ニ只口尖リ
テ小ナリ目高クツキ色淡褐紅色味亦頗ル鯛而
劣ル

海鰷魚 一エイ 黒一紅 ウシエイ 黒食ス遊紅 鳥エイトヒエイニ純モサシ黒モ

エイノ類 品類多ク拳タリ共ニ実名未詳

スブタエイ。カイメニ似タリカイメヨリヒラク大
ナリ目コヒシ尾カイメニ同シ○ウシエイノ色黒シ○
トビエイ子ヅミ色龜ノ頭ノ如シ○鳥エイ味赤エイ
ニ、サル味カロクヨシ○カラスエイ是モ色黒シ○コシヒ
ラエイ形ヨコヒロシ○サエイ色赤黒右何レモ味同シ
フカノ類 品類多ク拳タリ共ニ背ノ一名ヲ陽名ト云ス以白皮ニ細キサメアリ

スデニ本編ニ載タレ𪜈詳ナル事ヲ又コ、ニ記ス
○ヲロカト云。フカアリ○一丁ト云。フカアリ○ウサメ○
一名シモクサメ 鬢髪堂
白フカ○カセフカ右五種何レモ甚大キ也何モ人ヲ食フ
人ヲクラフフカハ油多シ不可食只油ヲ煎シ取○ツノ
ビハモダニ似タリ只背スギニ角ノ如ナル物ニアリ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

是モダ一ニカハレリツノジモキモニ油多シ煎ジテ燈油
トス洋海ニアリ○ホウフカ色白シ○スヽ子ブカ色白シ
○オホセ尾ノキハニ角アリ性ツヨシ切テモ其肉生キテ
ウゴク○サバエワリ形ハオホセニ似タリ尾ニ角ナシ○
シヽムシヤウサバエワリ横廣シヒキガヘルノ形ノ如シ○
ツノコ其形オホセニ似タリ腹ニ角アリ○ツヽリフカ
頭ノ兩方ニ穴ニアリ○カイメト云魚コチノ形ニ似タリ
長一二尺扁クウスシ頭ハスキノサキニ似タリウスシ
故ニ又スキノサキトモ云味ハフカニ似テカロシ生ニテモ
湯ビキテモ酢ミソニテサシ身ニシテ食ス肉白シ皮ニ

近所ハ赤シロハ腮ノ下ニアリ頭廣ク身ヨリ大ナリウ
スシ頭ノ兩ノ傍モヒレノ如シ形モ色モコチニヨク似タリ
頭ハコチヨリ廣ク大ニシテウスシ尾モコチノ如クニシテ
岐ナシ右ノフカノ類數品何モ味ハ相似タリ料理モ同シ
ヌメリゴチ水スキノ兩ワキニ針ニアリ○シ、ゴチ色赤シ
カハゴフグ形如河鮭魚長サ口ヨリ尾ニテ八寸五分バカ
頭ニイラサ有リ長四五寸アリ
リ目ヨリ尾サキニテ左右ニカド有故ニ背ハ平ナリ其
形方也口ノ下ノヒレノキハニイキ出シ左右ニアリ遍身
褐色有花紋花紋ノ色白シ腹ハ淡白ニシテ花紋ア

リ口小ナリ腹ノ内腸ハ浮クシテ空虚ナリスベテ肉ナク骨ナシ尾ノミ有肉尾ハ別物ヲ以ツギテ挾メルカ如シ後門ハ甚小也針ヲ入ルホドアリ是スベブクノ類異魚ナリ鬮ハ別ニ載タリ

神仙傳云介象與呉王論膾何者最美象曰鱠魚爲上○ボラトイナトノ膾尤ヨシトイヘリ

撥尾（ボラノコ）子魚之小者子魚一名鯔魚ボラ也スバシリハイナヨリ大

吹鮴（スナフキ）別是一種山谿小魚也大如指狹圓而長身有黑點嘗張口吹沙（ミヅヲカマツカゴリヲニゴラセテ沙ヲ吹ト云）其味美故魚麗之詩稱焉鱠豬（魚）コレ也ゴリウロコパゼドホポカジカノ類也

油ハエ（モロコ）形ハハエヨリ大ルク小鱸ニ似タリ長ニ三寸ウヒコニヌメリアリ油イロナリ味ヨシレ油多ク常ノハエニ異リ山川ニアリ又黒黙處々ニアルガ者有之是吹鮴（スナフキアレドモ別ナリ）ルベシ

生魚ハ食シテ不泥滯消化シヤスシ煮（ニ）モ炙（ア）ルモ皆ヨシレ鹽淹乾燥日久（ヒサシク）或爲鮓者皆消化シ難シテ滯ル壁（タヘ）ヘバ生也黄ハ大寒ナイヘド宣通シテ不泥熟地黄ハ卻テ泥滯スルガ如シ益生物ハ陽氣猶殘リテ化シヤスク熟物ハ既ニ生氣ヲ失テ化シガタシ生物ヲ喪テ拘ハリ泥ムベカラズ然レド毎物生ヲ好ミ熟ヲ忌ミハ

非ズ食物ノ性ヲ辨ズルニ此理ヲ知ベシ

穴キスゴ（魚ノ品类ニ穴キスゴヘ未詳）既ニ本編ニ記セリ常ノキスゴトスルハアシ

凡キスゴ漢名未詳以膾殘魚ヲキスゴヨリ甚大ナリ

フナレトギ（咽喉吻多魚 伊勢地図）ハ海魚也長ニ尺許其形頭ヨリ下ハ不扁（アヤカシ小判サメ小判イタヽキ小判ウオ）

レテ而圓レ頭ハ少扁レ背ノ近首處多ク横文ニテ而

促レリ（ヒシケル）横文ニ十三アリ横ニ連レリ其間三寸許背

ノ横文ヲ以船板ニ付テ不離生ナルヲ鉏上ニヲケバ

取付テ難分（漢名未詳）スゞハ海魚也長ニ尺許横セバク・タテ長レ馬鮫（サウ）魚ノ

形ニ似タリ色モ亦似タリ○漁人ノ曰骨多ク味不好（アシ）

且有小毒非佳品

○蟲類

桑蠹蟲（クハムシ）柳蠹蟲（ヤナギムシ）并ニ綱目ニ出タリ

草木ニヨダレト云虫ツクハ蟻ノ子（アリノコニアラス アリニキ糸嫩ヒ糸ヲ吐ク名蚜蟲ト云）ナリヨタレッケバ若葉

損ズ早クトリ去ベシ（初生ハ綠色後羽化ス蟻ノ如クアルモノハ食ノ後化ス）

蚊（カ）

産子（コミ）于水中（ミヅ）爲子（ボウフリムシ）子蟲（ボウフリムシ）仍（テ）變（メ）爲（ル）蚊也螢火（ホタル）蝙蝠能（クヒナキモノ食ノ）

食之（ヲ）

蚋（ブト）子（ヌカ 蚊ニ似テ細小ク蚊ヨリ大ク黒色蠅ノ如シコニブトトスルハヨシ）

本草綱目四十一蚊子ノ次ニアリ其註ニ浮塵

子アリ能透（トホリ）衣ニ入リ人ノ肌膚ニ成（ル）瘡（カサ）人極苦（テ）惟搗（イテ）椒根

葉傅（ツケ）之（ニ）則瘥（イユ）此說本編不載（セ）又黄蠅有毒齧（カム）人成（ラル）

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

瘡勿レ搔以冷水沃レ之擦レ鹽少許即愈○凡蚊納等ノサレタルニ佛甲草ヲモンデ付レバ其毒忽散ス

蜜蜂ノ巣少ヅヽ銅鍋ニ入水ヲ巣ノヒタルホト入火ヲ少ヅヽタクニエテ後巣ヲ箸ニテカキヽ ズレバトクルナリ

其時口切桶ニ水七八分入置馬尾嚢ニテ右ノ煎レタル巣ヲ水ニコレ入レバ蠟トナリカタマリ浮ヲ後ニアツメテ椀ニ入湯センスレバ蠟一ツニカタマル巣ヲ再煎ズ口切桶ノ水ヲレバくカヱテヨシレ水ヌルクナレバ蠟ヲタヽリガタシ

海馬（カイバ 通名ベリウクウノコトキモノヲ云 弦馬ノ如シ腹ヲフクレタルハ雌ヽ）

入門ニ云背カヾミリ如竹節紋長二三寸色黄

褐ナリ○ヤコト云説アリ○ヤコニハアラズ別也此物ガヨク内ニミジリテ有之（ジヤノユ 鰕ニ似タリ）

潜確類書（センカクルイシヨ）壌ニ名齒桑似天牛ノ體有白點嘉齒桑作ル孔ヲ入其中又名齧髮天牛ノ類ニテ別ナリ

蝦苗（アミノナエ 漢名苗鰕 形ニカキタルハ鈍倒ヽ）和名アミ泥海ニ生ズ生ナルヲナシ物トス孕婦不可食墮胎産婦及金瘡アル人不可食又發瘡疥性不良食スベカラズ猫クラヘバ不産子ヲ

○介類

片貝（カタガヒ）

蛾（ヨメガヒ）ノ類ナリヨメノサラニ似テ少大ニシテ淡レ味

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

ヨレ蝮ノ如クフタナレ故ニ片貝ト云其肉モ亦鮑ニ似タリ貝ノ色内外黒シ味ヨレ頗佳品ナリ毒ナシ・ナレモノトス海岸ニ附生ス其大七八分蠣ハ本書ニ載タリ又福州府志ニ曰老蝉牙似蠣而味厚シ一名牛蹄以形名是片貝乎

葦蟹（アシカニ）和名ツマシロ（漢名ナシ）狗仙覺カ萬葉ノ註ニ云海邊ニ人馬ナドノ音ヲキヽテハシリ出ル白キカニナリ（沈リヘアシオトラ攻ケハ穴ヘ入ルモノヘ）驚信謂凡如此非常ノ產物非佳品其性モ亦不好不可食

尾張ノ產ノ眞珠ハ諸貝ノ珠也伊勢ノ產ハアハビナリ最ヨレ可用

本草綱目ニ蛤蜊粉異名海蛤時珍曰海粉者海中諸蛤之粉以別江湖之蛤粉蛤粉冠氏所謂象蛤粉蜻粉也今人指稱但曰海粉蛤粉（ケニ字ノ名唐ノ李勉見祝允明所記鬼面蟹トアリ）

島村蟹（シマムラガニ）ハ鬼蟹也享祿四年備前ノ浦上掃部助村宗ト於攝津合戰シ於尼崎雲細川右京太夫晴元ト於尼崎打負自殺浦上ガ臣島村彈正左衛門貴則敵ノ強兵兩人ノ左右ノ脇ニハサミ水ニ入テ共ニ死ス尼崎ノアタリ野里川ト云所ナリ其靈蟹ト成レトテ島村蟹ト云怒レル人面ノゴトシ一說細川高國カ臣ト云ハ誤ナリ

ト云此蟹ハモロコシノ書ニノセタリ鬼蟹ト云然ルヲ近

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

世ノ俗人アヤマリテ人ノ靈魂ト云ス鬼蟹ハ昔ヨリアリ
蠏ノ面鬼ノ如シ（此説非ズ）

入門ニ上甲散下甲散トテ藥方アリ曰上甲ハ卽龜甲
下甲ハ卽龜板（今ハ下甲ヲ龜甲トシ上甲ヲ鼈甲トスルナリ）

蠣粉（牡蠣ノ粉ナリ）ヲ用テ壁ヲヌルコト本草綱目ニ見エタリ曰
本ニテモ亦然リ又小池蓮池ヲ以龜ノ尻ニ點スレバ
龜ノ尿ヲ取法本草ニ曰紙燭ヲ以龜ノ尻ニ點スレバ
尿出ヤスソレ猪ノ毛又ハ松葉ニテ鼻ヲサセバ尿
出ト云リ時珍曰龜尿ヲ以墨ヲスリ石ニ書ス能入
コト數分ト云日本ニテ昔佛經ヲ石ニカキ其文字
久シクヌケ不脫モ此法ナリト云今モ其石アリ

蠣　又一種生海中大如杯曰草鞋礪又一種大蠣
房數倍五六月有之名曰黄蠣（大カキニ似テ小ナリ）月令廣義ニ出タリ
馬刀　入門曰形如斬馬刀有毒多食發疾本草ニモ
亦言有毒然レ共今村民多食之（サヤノヨウナルカイニテ長サ一寸ホドアリ）
玉珧　臨海異物志曰玉珧厥甲美如珧玉卽江瑤也如蚌
異物名記曰肉柱膚寸美如珧而稍大中肉腥而腐朝不中
タイラギニ似タリタイラギハ只肉牙一柱耳
淡菜　ハ海水潑處ニアリ蛋婦カヅキテ取煮テ食シ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

或煮テ脯ト(ホシモノ)ス又糟ニツケ麴(カウジ)ニ藏ムルハ生肉ヲ用ユ
是井ガイナリ既ニ本編ニ記ス
海介ノ類夏月其ニヽヲケハ不壞モシ水ニ浸シヲケバ
早クアザレテ不可食海魚モ同シ
蝮(アビ)(漢名ニアラス アワビハ石決明ト云)引蝮ハノシナリ朝鮮人モ如此書ス日本ノ俗ノシヲ
熨汁鮑ト書ハ非也熨斗ハ器ノ名火ノシ也○鮑ノ
麹醢ノ法鮑ノ端ト穢腸トヲ去肉トギヨキ腸トツノ
ト云處ハ可用肉ハウスク切腸ト合セ百ヲニ鹽十五
ヲ暑月ハ鹽二十ヲヲ麹二十ヲヲ和シテ壺ニ入口ヲ
封ス十日ヲ歷テ味佳シ歷久益好又諸魚ノ肉モ如ニ

此法シテ可也蝮鰒最美シ
紫貝(筑前ノ方ニアリ)海底深處ニアリ故取之難シ三月ニ取之長ニ三
寸餘濶ニ寸許殻淡紫褐色内ハ黑シ肉内ニ三ツ(長サ三四寸蒲ノ蛤ノ形ニ似テ稜ニ長シ陸奥名物ニ有テ)
リ味甚美シ啖之ヲ鬆軟ナリ中華
ノ書ニ未見之
凡諸州ニ草木魚鳥介蟲土石等ノ異品各處ニ多シレ
不可窮(メ)知
○水火類 并土石類
黒泉水 在灣(タイワン)旬(タカサゴ)州有大毒悞(テ)飲之(ヲ)立死○毒泉水
在雲南邊方者有大毒飲之(ヲ)人畜並(ニ)死(食物本草綱目)

泉不流者飲之有害博物志山居之民多癭腫疾由于飲泉之不流者

焦氏筆乘曰本玄虚海賦陰火潜然初不知其說後見嶺南異物志海中水遇陰晦波如然火滿海以物擊之迸散如星火有月即不復見意玄虚指此耳○今按ニ海潮ヲ夜ワタレバ其足ノ動カス處火ノモユル光ノ如シ不知人ハ物怪カト疑フ月夜ニハ光ナシ是カ子テ知ベシ

本草ニ海水ヲ煮浴スレハ風癘癬ヲ去ト云リ○海水ヲ煮テ浴スルニ水ヲ半分加フベシ水ヲ不加性ツヨクシテ病人ニ害アリ

日本紀天智天皇七年越國獻燃土與燃水○今按ニモユル土ハ近江ノ老曽ノスクモノ類。モユル水ハクサウヅノ事ナルベシ

伏龍肝　猪肝ヲ泥ニ加ヘテ竈ヲヌル令婦孝是後漢書ノ註ニ出タリ蓋ニジナヒナリカ、ドノヒタヒノ久シクヤケタル黄土ナリスリクダキテ水飛シテ用ユ其主治綱目ニ載タリ伏龍ハ竈神ノ名ナリ

海石　時珍云乃海中浮石也時珍云後世寒食禁火乃季春改火遺意ナリ

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

○藥類

丸藥（ガン）　糊（ノリ）ニテ丸シ蜜ニテ丸ジタル藥未（イマ）乾不可服（カハカズフクスベカラズ）服之（コレヲ）停滯シテ爲病烈日ニホシヨクカハキテ服スベシ若雨天ナラバ紙ヲヘダテ火（ヒ）ニアブルベシ火ヲ忌藥アラバ不可也

附子（ブシ）　中華ヨリ來ルハ皆鹽氣アリ是小便ニヒタセルナリト唐人云リ然レバ日本ニテ製スレニ童便（ワラハノセウベン）ヲ用ベカラズ李中梓ガ説ノ如ク熱湯ニツケ鹽氣ヲ去リ皮膚ヲ去テ四ニワリ甘草ノ濃汁ニテ煮カハカスベシ此製法最ヨシ既ニ本書ニ見ハストイヘ尼他（カレ）説ニ不レ記ス

本事方曰黃松節（マツノエダ）即茯神中心ノ木也

煎（セン）補湯（ホトウ）法藥一（ヒト）多（タ）以上至二（ニ）一多半（タハン）爲一（ヒト）服新汲清水四盞（サン）ヲ用テ煎（セン）ジテ一盞半（サンハン）トシニ度ニ服ス滓（カス）ハスツベシ一盞ノ水五十多餘アル盞ヲ可用利湯ハ藥一多半ヲ一服トシ水一盞半ヲ用テ煎ジテ一盞トシ滓ハスツベシ久シク熟スレハ藥カナレ

神麴　特珍（トクチン）云蒼耳葉汁（オナモミノハノシル）　青蒿葉汁（カワラヨモギノハノシル）　蓼葉汁（タデノハノシル）　次上　杏仁泥（スリツブシタルアンニン）各三升　赤小豆粉（アヅキノコ）　杏仁同和作餅（アンニンドウワシテモチニス）麻葉或楮葉包（アサノハアルヒハカウゾノハニツヽム）用汁（シルヲ）和麪（コムギコヲ）赤小豆（アヅキ）三物ハ皆汁ヲ用ユ各三升

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

特1
2292

署如造醤黄法蒸生黄衣晒收之○神麹八年ヘテ久キヲ用ル最ヨシ神麹ヲ製スルニ五月五日六月六日或三伏日亦可製○薛立齋云神麹消血不宜多服（茅店ノハコヲサズ乾シタルモノヘ茅ニ不可入）

延喜式ニ諸國ノ貢藥ヲ載ス其内ニ數州ヨリ人參附子ヲ貢ス人參ハ沙參ナルベシ附子ハ日本ニアルトリカブト（牧渓ノ画ニ烏頭ヲトリカブトヲ極テテキメルモノヽ如ク附子ヲ画ケリ）ナラバ性ヨカラズイブカシ古日本ニハ是ヲ用藥トセシニヤ

時珍云蘆火竹火宜煎一切滋補藥ヲ

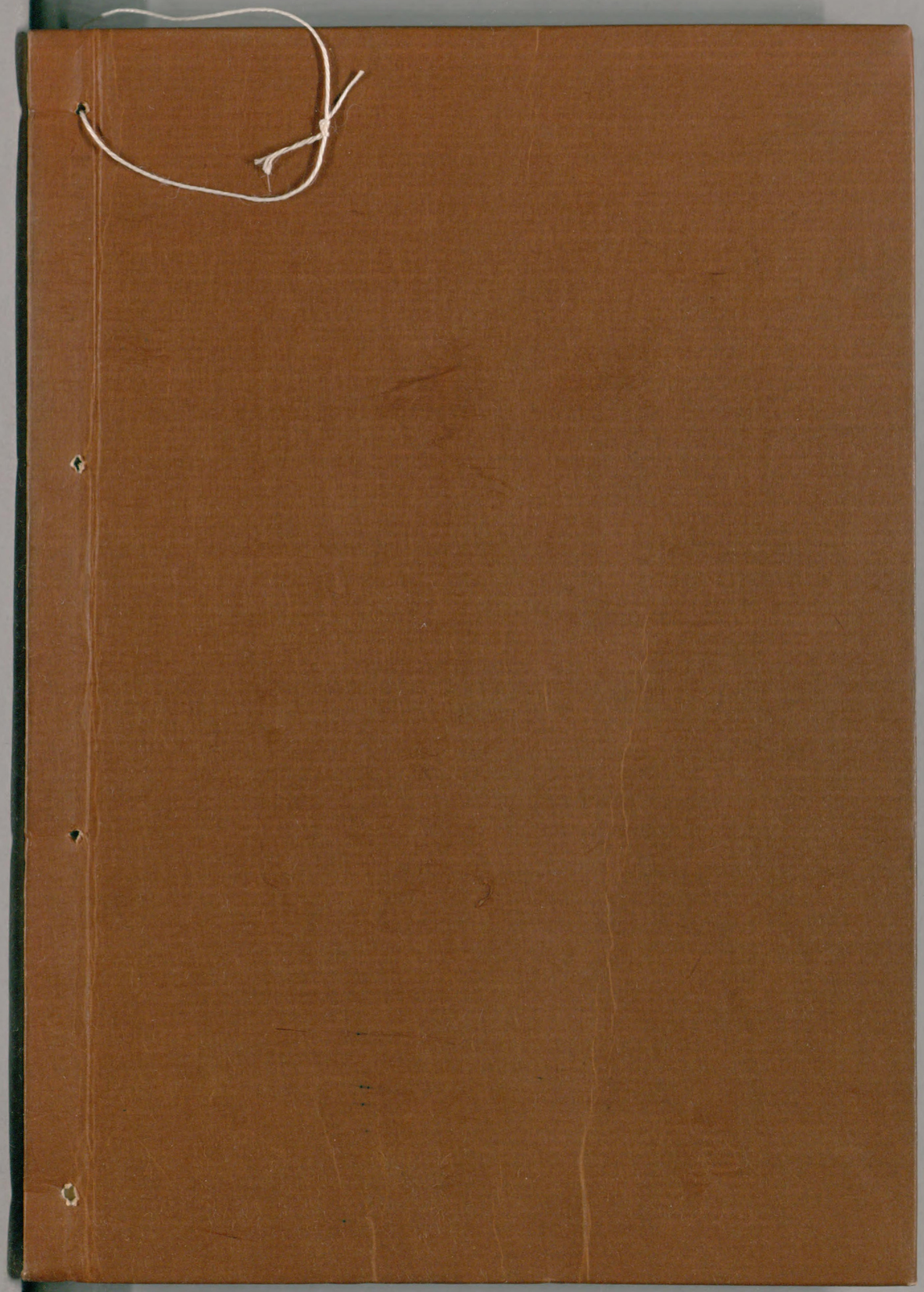
大和本草附錄卷之二　終

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292
ガラス使用

特1
2292

国立国会図書館　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『大和本草 18巻』 請求記号 特1-2292

ガラス使用